第15回　市民参加懇談会コアメンバー会議
－市民参加による政策検討会議－
議事録

１．日　時：平成15年12月18日（木）　13：00～15：00
２．場　所：中央合同庁舎第４号館　２階　共用第３特別会議室
３．出席者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、岡本委員、
　　小川委員、小沢委員、蟹瀬委員、東嶋委員、中村委員、松田委員、吉岡委員
　（原子力委員会）竹内委員
　（内　閣　府）藤嶋参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
４．議　題：（１）次回の市民参加懇談会の開催について
　　（２）その他
５．配布資料
　資料市懇第15-1号　次回の市民参加懇談会の開催についての参考資料
　資料市懇第15-2号　第14回市民参加懇談会コアメンバー会議における次回開催
　　についての議論の論点整理
　資料市懇第15-3号　第13回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録
　資料市懇第15-4号　第14回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

６．審議事項
（１）次回の市民参加懇談会の開催について
○事務局より、資料市懇第15-2号について説明した。
（木元座長）
・前回のコアメンバー会議でのご意見を集約したのが資料１５－２である。基本的に押さえておかなければいけないことと、「市民参加懇談会ｉｎさいたま」開催を踏まえて、手法としてこういうことがあるのではないかということを分けて書かせていただいた。
・前回のコアメンバー会議で福島県での開催という方向性は出てきたが、福島の中でも浜通り、いわゆる立地地域が良いのか、それとも郡山市とか福島市といった消費地、すなわち中通りの方が良いのかという点はまだまとまっていない。
・資料１５－１には、例えば共催をお願いしたいと思っている福島県の団体の候補として、たくさんあるところから主立ったところを４つ書かせていただいた。こういう団体と共催する場合には、我々市民参加懇談会のコアメンバーとしては、例えば浜通りでやることが望ましいのではないかとか、会場とかテーマとかパネリストとか、そういった意見はまとめるが、それを共催相手にご討議していただくという段階をとるので、ここで決定ではないということになる。
・資料１５－２で説明したのは、あくまでも開催する場合の手法になる。その手法も共催相手と相談したい。この団体の傘下に多くのグループがあると思うので、これらの団体と交渉すればいろいろなグループが挙がると思うが、まず、こういう団体と交渉させていただくことはいかがか。
・これを念頭に置いて交渉を始めるわけだが、その場合に先ほど申し上げたこちら側の

考え方としての開催場所、地域を固めたい。サイトの方が良いとすると、富岡町、双葉町、大熊町、楢葉町。浜通りだったらどの町村が良いか。あるいは郡山市とか福島市といった中通りが良いか。ご検討いただければありがたい。

（小川委員）

・共催団体の気持ちを考えると福島市になるという気がする。というのは、共催団体の中心地というか、代表の方がいらっしゃるところが福島市である。一番活動している人が集まっているところで開催したいだろうと思う。

（木元座長）

・例えば資料１５－１の３番目「福島県婦人団体連合会」の傘下には富岡町などの支部がある。

（碧海委員）

・浜通りには以前、ある懇談会の女性部会で結構活躍した人たちがいる。小高町とか富岡町とか双葉町とか、どちらで開催するかによって交渉する相手も違った方が良いのではないかという気はする。

・ＷＥＮ（Women’s Energy Network）はいわき市でフォーラム「くらしと放射線」を開催した。いわき市は規模としては良かった。

（木元座長）

・サイトに特化されたテーマでない場合、例えば、放射線の場合はいわき市は適しているかもしれないが、テーマによっても違ってくると思う。

（碧海委員）

・会場も割合と良かった。

（木元座長）

・何人くらい参加されたのか。

（碧海委員）

・そのときは女性中心で、８０人ぐらいだった。

（木元座長）

・何人くらい来ていただくかということもまた討議の対象になると思う。

（吉岡委員）

・資料１５－１を見て婦人団体がターゲットとしてあらかじめ定められているような気がする。内容的に啓蒙イベントのような形を想定されているとすれば、前回の議論ではもっと別な線もあるはずだということが特に加藤委員から出されたと思う。テーマを決めたり、誰に当たるか決めるには、その点を省みておかなければいけないと思う。１年間一つのテーマを決めて開催するというようなことを、加藤委員が提案された。私もテーマを絞れ、絞れと言ってきたので、それに非常に賛成だが、その場合どうするかというと、一般向けイベントではない形を、最初に福島で試みるのも一つの手であろう。その場合には、私は文書でしか記憶はないが、１９９４年の長期計画の策定時、最後の段階で細川政権ができて、江田長官が「ご意見を聞く会」を開き、そこで二十何名かに１人ずつ話させて、それに対して委員が応答するという形をやったと思う。できるだけそういう形でやりたい。テーマを決めて、それについて意見を公募して、できるだけ採用する。１回で終わるかわからないが、皆さんの意見を採用して、１人当たり１０分とか１５分とし、しかもそれを公開で、聞きに来る人は自由である

というような、そういう形のものを試みる。そのテーマを１年変えないとすると、そういうことを何回もできるから、議事録も蓄積していくし、良いのではないか。前回の「ｉｎさいたま」では９人しか話せなかったことを思えば、１５人でも十分過ぎる数だと思う。

（木元座長）

・「ご意見を聞く会」の提案者として申し上げると、あれは全国から新聞広告して公募した。個人としてお考えを伺いたい方に６人お願いして、意見募集に応募された方から１４人お願いして、組織の代表等の方を７人お願いした。その中で決めた方をこういうラウンドテーブルに並んでいただいて、お一人、お一人ご意見を伺って、３回に分けてやったことが初めてで、その延長が円卓会議になったものである。吉岡委員がおっしゃる意味はとても良く分かる。市民参加懇談会でここまで来て、吉岡委員の意見の中の手法を今後どう展開するかということはとても重要なので、それは今後検討していくが、今の段階で、福島の浜通りか中通りかという話になり、対象の団体が先に出てきたが、他にまだたくさん団体があると先ほど申し上げた。その中から吉岡委員が言われるような方々をピックアップしていきたいと思う。対立的な立場にある方もいらっしゃるし、そういう方たちに交渉して、刈羽のときと大体同じぐらいのバランスで共催したいと思っている。

（吉岡委員）

・その場合はあまり知識がないグループに対して浅く広く議論をするという流れになってしまうと思うが、おっしゃる意味は、狭く深く議論するということもあり得るということか。

（木元座長）

・それは相手方との交渉によるのではないかと思う。先方の考えがどういうお考えかによっても決まってくるだろう。今の吉岡委員のお考えは承っておいて、こういう手法もあるということを申し上げることは可能であると思う。

・一つのテーマで１年やるというのは少し先まで待っていただければと思う。

（松田委員）

・私たちのごみ・リサイクル問題の活動で、活発に参加してきているのが商工会議所とか青年会議所とかＰＴＡの方たちである。だから、この４つの団体の方たちに参加者をお願いするときに、ぜひ青年会議所とかＰＴＡ連合会だとか商工会議所の方たちへご連絡をとっていただけると、すごく新しい展開になるのではないかと思う。

（木元座長）

・商工会議所の婦人部は活発である。

（松田委員）

・そう思う。福島では商工会というのがあって、私はかなり福島の商工会の方たちとは仲が良いが、商工会婦人部、商工会という大きな団体がある。

・私はＭＯＸ燃料をきちんと利用するということに関して、もっと啓蒙活動が必要なのではないかと思う。

（木元座長）

・それはあくまでもＭＯＸを入れようという推進の立場を市民参加懇談会がとればそうなるが、そうではなく、ＭＯＸを取り上げるとしても違う角度からテーマを見つけて

問題をはっきりさせたい。例えば、なぜＭＯＸ燃料かを考えていただくようなテーマにした方が良いと思うので、あまりそれは前面に出さないのがよろしいと思っている。

（松田委員）

・ＭＯＸ燃料そのものは知らない方がたくさんいらっしゃるので、ＭＯＸ燃料とは一体何なのかに関する正確な知識を伝えるということなら、啓発でも構わないと思う。原子力が良い、悪いということではなく、そういうテーマに絞るというなら絞ってみて、皆さんで考えてみるというのが良いかもしれない。

（木元座長）

・刈羽での開催のときに、そういうことをやる場合には小規模な勉強会を続けた方が良いと思うというご意見は、碧海委員や井上委員も言われたと思う。なぜかというと、刈羽開催のときは日本のエネルギー政策に関するテーマから始めたが、一番最後に立ち上がった女性の方が、「今日は何の会ですか。こんな政策のことを私たちは論じたくない。ＭＯＸのことを知りたかったんですよ」というようなことをおっしゃられて、どきっとしたことがあった。ＭＯＸを装荷するかしないかで刈羽村では住民投票をしたわけだが、松田委員がおっしゃられるように基本的なことがまだ押さえられていなかったということである。それは国なり事業者なりがもっと勉強会等をやる必要があるかもしれない。しかし、市民懇としての立場とは違うと考えさせていただければありがたいと思う。ここに書いてある４団体は先ほど申し上げましたように、「他」と書いてある部分がたくさんある。その中にはどういう団体か把握できていないものもあるので、これから調査する余地はあると思うが、基本的にこの団体の方と交渉させていただく方向をとってよろしいか。

（東嶋委員）

・共催団体としては、これらの方々の中からということでいいと思うが、前回の話の中であったように、立地地域と消費地を結びつけるということで言うと、例えばパネリストの方に消費地域の商工会議所とか消費者団体の代表の方を入れるとか、あるいは共催団体といったときに、例えば東京の同じようなＰＴＡ連合会の人を入れるとか、そういう共催の仕方はできないか。

（木元座長）

・それも一考であり、テーマによってはあり得ることだと思う。立地地域の地元だけが抱えている、非常に特化された問題を取り上げようということならば、地元からだと思うが、そうでなければ福島市の消費者団体が入っても構わないと思う。

（小川委員）

・ご要望の声が上がって来るとするならば、そういう団体につながるような団体と相談しないと失礼かと思う。

（木元座長）

・それは配慮したい。きっと手が挙がると思う。

（中村委員）

・共催というのを、１から考え直した方が良いと思う。今も話があったが、さまざまな団体にお声をかけるのは参加していただくという意味で一向に構わないと思う。ただ、共催ということになると、市民参加懇談会のスタートの基本である「広聴」ということを考えると、我々が何を聞きたいかということと、彼らが何を言いたいかというこ

とのすり合わせがないと共催は無理だと思う。共催ですり合わせるよりも、市民参加懇談会としてどういうテーマで何を聞きたいか、それを明確にする方が良いと思う。どの団体と共催しようという議論は不毛ではないかと思う。

・「積極参加してください」と、それぞれにお声をかけるのはもちろんである。その中からパネリストが選ばれることもあるだろうし、もちろん会場で挙手してご意見をいただくということもあるが、共催というのはそんなに市民参加懇談会にとってはメリットがないように思う。

（木元座長）

・今まで市民参加懇談会の中でたった１回、一番最初だけ刈羽の方たちと共催した。その後、共催は、ご相談はするにしても、やってはいない。その都度、テーマややり方によっては、市民参加懇談会としては内輪でご意見を交わすだけでなく、共催相手と開催準備の段階から、場所を決めること、テーマを決めることとかをやっていってこそ市民参加というのが大きくとらえられるのではないかという思いもあるので、資料１５－２に囲み線をして基本的な考え方として書いた。過去の開催を振り返って、今回は共催でいくかということになった経緯がある。

（中村委員）

・趣旨は良く分かっているが、企画の段階から地元の皆さんのお声を反映してというのはもちろん賛成だが、それが共催である必要があるのかということである。

（木元座長）

・共催ということでなく参加をしていただくということか。

（中村委員）

・我々の主催だけで良いと思う。

・共催となると、何か余分な、余計な、というと言葉は悪いかもしれないが、本質ではないところに時間と労力が結局割かれる可能性があって、主催はあくまでも市民参加懇談会でよくて、企画や運営についていろいろな団体のお声を聞いて反映していくという方がすっきりするのではないかと思う。地元の方も共催というのは何なんだということになってしまわないか。

（木元座長）

・ご懸念は良く分かるが、共催にしないとできない部分も若干ある。というのは、刈羽開催のときに、主催何々、主催何々という催しはいくつもあるが、地元と一緒になってやった催しがないと、自分たちの意見を最初から反映させてくれないと、こういう会というのは今後難しいというご意見もあって、何回か地元の方々とやりとりをして、中村委員もご存知の通り、私も通いましたし、その後は碧海委員、井上委員、吉岡委員にも行っていただいたと思うが、その上で開催ができたという実績もある。そのとき行っていただいた方にご意見いただければありがたい。

（碧海委員）

・私は中村委員のご意見に賛成である。共催でない方が良いという気がする。

・資料に挙がっている共催団体候補はどう見ても消費者団体中心である。ＪＡはともかく、生活学校にしても、消費者団体という気がする。消費者団体だと一般市民とのつながりはそんなにはないと考えた方が良いと思う。そういう意味で私はこの消費者団体と共催というのはどうかと思う。

（木元座長）
・これで決まったわけではない。まだ具体的に地元の会があるかもしれない。
（碧海委員）
・例えば、この前いわき市で我々がやったときも相当反対意見の強い人が参加していて、後でホームページに酷評されたり、ということがあったが、そういう団体は幾つかあると思う。そういうところへ声をかけて一緒に入ってもらうというのは私は賛成であるが、それは相当限られた人数のグループが幾つもある。
（木元座長）
・小さいグループだと、こちらに声をかけるとこちらにも声をかけないわけにいかないという煩雑さは出る可能性はある。だから、こういうインテグレートされているところに声をかけて、そこから紹介していただくなり、例えば富岡町ならここ、というようなことをご紹介いただければ、共催する場合にその名前が出ることになるだろうと思う。その方が共催する場合にはより具体性があると思う。
（碧海委員）
・共催でなくても良いのではないかと私も思う。
（中村委員）
・共催するよりも、浜通りでやるか、中通りでやるかでまた少しは違ってくるが、広くいろいろなグループにお声をかけて、こういう趣旨でやると知らせる方が、共催をお願いしたいという話をするよりはかえってオープンな感じはする。
（木元座長）
・煩雑がなくなる分、楽は楽だと思う。
（中村委員）
・楽というよりも、どこと話をして、どこがほかに共催なのかということが問題になって、そんなことでまた何か余計な、地元でも何かリアクションを生む結果になりはしないかという危惧がある。そうなるくらいならリアクションは市民参加懇談会が一手に引き受ける形で主催し、そのかわり可能な限りお声はかけたという方がすっきりする。
（木元座長）
・そのお声をかけた団体の名前を出すことについてはいかがか。
（中村委員）
・それは良いのではないか。
（木元座長）
・どういう形でお声をかけた、と団体名を出すことにして、きちんと公開するということで良いか。
（中村委員）
・「共催」というのは、相当固定したイメージがどうしてもつきまとうと思う。
（井上委員）
・刈羽で開催したときは、共催で全体として大変ご苦労されたと思うが、第三者的に見た共催というのは、両方ともに責任をそれに関して持っている。終わった後、あれは何だったのかという、それぞれの団体におけるそれなりの活動も期待する。共催という限りにおいては、やることの責任とやった後の責任とあると思う。そうすると、地

元の方たちにイメージとしてそこまで共催をする、引き受ける覚悟というか、そういうスタンスが開催の前にできるだろうかという問題はある気がする。
・あいまいかもしれないが、協議とか協力団体というような形で、お声をかけた団体を公表させていただくという軽い関わりなら、しかも一つでなくてお声をかける限りすべて全部協力をしていただいたというようなことなら、向こうの方たちも少し気が楽で、しかし関わったということは表明していただくというように、表現を、トーンを少し落としたらどうかという気がする。
（木元座長）
・私の理念もあり、少しトラウマ的になっているのかもしれないが、刈羽で住民投票をやった後に、いわゆる反対派を中心にして住民投票を行った方から手紙をいただいて、「ＭＯＸ装荷が良いか悪いかという基本的なことをやらないと、やりたくない方はやりたくないという集会を開く、やる方はやるというので啓蒙を含めてやることになる。しかし、そこは一致して何か一つの課題があったときに、共催して開催する方法はないだろうか」というようなご提案があった。何回か交渉して、幾つかの団体と共催をした。最初はそういう会に参加なんかしてやるものかというところから始まった団体もあった。そういう協議をする部屋にも入りたくないという女性ともやり合った。しんどかったがやっと合意して、結果はまだ引きずっている部分があるものの、まだコンタクトはとれる。そういうコミュニケーションが重要だと思う。手法は共催という名前にしなくても何らかの形でつながりを持っていきたい、またいくべきだと思っている。
・やり方として、井上委員がおっしゃったことでは「協力団体」という方法がある。
（井上委員）
・協賛とか協力とか後援とか、いろいろな言葉がある。
（碧海委員）
・例えばＷＥＮが共催をもし呼びかけられたら、ＷＥＮの活動方針とか、そういうものにそれがちゃんとかなうかどうかと、組織としてグループとしての検討をしなければならないし、それに適わなければやらないし、やれない。
（木元座長）
・それを刈羽でやった。そのときにとても時間がかかったのも事実である。
（碧海委員）
・協力ならできる。
（井上委員）
・開催することに協力する。その段階までは入れる、というように関わっていく方が後々良いかと思う。
（小沢委員）
・刈羽のときは先方からそういうご提案があったわけだろう。福島も共催したいというご提案があるのか。
（木元座長）
・町長のご意見として、町が協力したいから話し合いをしたいと聞いている。
（中村委員）
・町や市が共催なら、それは話は別である。

（木元座長）
・そこはもう少し調査しなければならない。刈羽で開催したときは議長は３人出た。私と推進する方と反対派の方と３人出るということにして、そこに出るパネリストと意見陳述者が参加した。かなりの人数だったが、先方も決めた部分があるし、こちら側もお願いしたという形で、話し合い、話し合いでやったという経緯がある。
（小沢委員）
・共催については、私も中村委員の意見に基本的に賛成。
（中村委員）
・柏崎市では、地元で反対派、推進派を含めて、自主的に会合を持って、やっと話ができるようになったというお話を先日聞いた。それが最終的に立地で言えば理想的な形なのだと思う。
・そこまで来るのに時間はかかったが、それに我々の「市民参加懇談会ｉｎかりわ」が貢献したかどうかというのは非常に難しいと思う。もちろんポジティブにとらえれば、ああいうこともあって、お互いが近づいてくれたのかもしれないという見方もできなくはないが、東京の人間、消費地の人間であるとか国の機関であるとか、いわゆる識者の人たちが来てくれてもどうしようもないんだ、やっぱり自分たちでやらなければと、解釈してくれて、申し訳ないが、木元さんに来てもらわなくてもいいというように自分たちが言えるようにならなくてはと始まったのか、細かいところまでは実態は分からない部分があるが、ただ地元の人たちにはそれが一番良い形であり、我々が行ってどうのこうの言うことが過程として多少でも役に立ったなら嬉しいと思うものの、私はそこまで楽観視はできないと思っている。きっかけを与えて差し上げることはもちろん良いことなんだけれども、そこで共催することがきっかけになるのかということは少し考えてもよろしいのではないか。
（木元座長）
・刈羽スタイルは、初めてああいうことをやったので、評価してくれた方々がいらっしゃるのは事実だし、したがって、その後、対立関係者が一緒になって開催するきっかけになったのは確かだと思う。柏崎に行ったときも、碧海委員たちと行ったが、そのときも共産党の方たちと会ったり、自治労の方たちとも討論をした。それがきっかけになって、会議が持てるようになったということをご報告いただいたから、少しはお役に立てたという気はある。しかし、今、中村委員が言われたような方向で進むのもなかなか良いと思うし、その方向で行くということが決まれば、共催という言葉は今回はやめる。
（小川委員）
・私の意見としては、共催できればそれが一番理想的だと思っている。共催まではできないよと、いろいろなあちらの理念と照らし合わせて、それはできないということになったら、協力とか後援、となってくるのだと思う。だから、共催するということを目標の中から外す必要はないのではないか。
（中村委員）
・外した方が良い。
（小沢委員）
・外した方が良いと思う。

（木元座長）
・持ち込んでいったときに、先方が共催したいということならば入れても良いと思う。
（小川委員）
・そういう選択肢もあり得るだろう。
（中村委員）
・話が逆だと思う。先方が、ぜひ市民参加懇談会と共催でやりたいと言ってきた、という前提なら、我々がその共催は是か非かと考えれば良い。今、我々の方からまずやろうというときに、どこを共催相手と考えようかというスタートになっているからおかしいわけで、しかも地元のいろいろなグループを、幾つかに分けて、ここは共催で、ここは協賛で、ここは協力でなどというのは絶対におかしい。そんな形では絶対やらない方が良いと思う。
（小沢委員）
・それはそのとおりだと思う。相手が町とかという公の団体だったら良いが。
（中村委員）
・その場合は問題ないと思う。
（木元座長）
・そうすると、話を持っていくときに、共催か協力か何かということは言わない、と。
（小沢委員）
・言わなくて良いのではないか。なぜ共催という話に突然なるのか分からないが、ぜひ共催してくれと先方から要望があったときに、中村委員の言うように考えるなら分かるが。
・刈羽開催に関しては、時期的に相当いろいろ拙速だったしとか、いろいろな失敗の総括はそれなりにあったわけだから、それと一緒にして考えなくて良いと思う。あれと同じこと、あるいはもっとうまくやって、あのトラウマを除去しようと考えることはないのではないか。
（木元座長）
・刈羽開催は反省もあるが、ポジティブな評価もある。共催することもまたあり得ると思う。
（中村委員）
・それはあると思うが、刈羽の場合はレアケースで、住民投票の結果が出たという大きな問題があった。我々もどういう思いであの人たちは投票したんだろうというのを知りたかったから、共催というのにかなり必然性があったのだと思う。
（木元座長）
・先方からはっきり言ってきた。
（小沢委員）
・真っ二つに分かれたということが歴然としているときに、どこかと一緒になってやって、話を聞きたいというのが刈羽のときにはあったろうと思う。今、福島はそれとまた少し違うだろう。
（中村委員）
・ある催しで、福島から来てくれた皆さんたちが、浜通りの人たちがとにかく地元でもいろいろなことをやって欲しいという声は会場から聞いた。そういう声は分かるが、

共催して何かしようというふうには考えていないと思う。
（木元座長）
・まとめさせていただくと、今ご意見が出て、なるべく「共催」を使わないで、こちらが主催でやった方がよろしいのではないかと。それを基にして、４つ仮に書かせていただいている団体にお話し合いを持ちかけるということは構わないか。それとも開催することにしたからお願いすると言ってしまうか。
（小沢委員）
・今までと同じで良いのではないか。
・全部を公表して、宣伝して来ていただければ良いのではないか。もしご案内をどうしても出したいのなら、こちらが知っている団体に、こういうのをやりますからどうぞご出席くださいというお知らせをするのは良いと思うが、そのくらいだろう。
（木元座長）
・似たようなイベントばかりで同じものは不要と言われたことがある。自分たちで一方的に企画してきて、あなたのところでやる、ご協力をお願いする、と、国も事業者も今までそういうふうに来ていると。自分たちと一緒に考えて開催する、ということがない、という意見がまだ引っかかる。だから、私たちはこう考えて、ここで開催させていただこうと思うが、協力していただけないだろうかと、そのときに何かご意見があったらおっしゃってくださいということなら、本当の協力になるだろうと思うので、そういう形のアプローチはどうか。
（中村委員）
・構わないけれども、それだとあまり新鮮味もないと思う。
（小沢委員）
・どこもみんなやっている。
（中村委員）
・物理的な時間の問題とか、開催時期の問題とか、会場の問題とかがあるが、今、座長が考えておられる趣旨を生かすとすれば、ただこういうのをやるからお願いするというのではなくて、ご協力いただくとしたらどういうテーマでやったら皆さん来ていただけるかという、企画段階からご意見をいろいろ聞かせていただくのが良いだろう。
（木元座長）
・我々はこう考えたけれども、こういうテーマはどうかと、共催だから企画段階から話し合えると私は認識している。
（中村委員）
・それは別に共催にこだわらなくても、そういうアプローチで地元のいろいろなグループ、いろいろな団体に声をかけて、その段階から地元で何をやってほしいか、どうせ話し合うならこういうことを話し合いたい、意見を言いたい、あるいは識者の意見を聞きたいという、テーマをすくうところから始めれば良いのではないか。
（木元座長）
・それは必要である。私の認識では共催ということになる。
（中村委員）
・それは共催という言葉にあまりこだわらなくてもいい。
（木元座長）

・それにこだわらないで開催するとなると、時間をかけて相手方と話し合いを続けなければいけないということになる。そうすると、今までの共催の手法と似ている。
（碧海委員）
・先に場所を決めた方が良いのではないか。
（小沢委員）
・どこでも同じになってしまうというのは、形式として、お話になるパネラーがいて、それから事業者がいて、話をして、そして会場の皆さんからご意見を伺って、時間制限して、しゃべったりうるさいことを言うと追い出しますよという放送をやって、というのはどこも同じパターンだからだろう。福島でどうしても共催みたいにやりたいのなら、例えば、こういう意見が出てだめだということになったということや、何が来ても全然地域の意見を聞かないということだが、そういう点のお話はできないかというような会議をやったらどうか。共催は私は反対である。立場が全然違うのだから。
・共催が問題なのではなく、中を変えれば良いのである。福島はいろいろな催しが行っているから、今までのようなシンポジウムスタイルでないスタイルで、ここではやってみようというのなら、私は賛成する。
（木元座長）
・そうすると、小沢さんの考えで具体的に言うと、まず何から始めたらよいか。
（小沢委員）
・福島のいろいろなところでやっている催しでの市民の意見を一回集約してみたらどうか。どういうご意見があるのか、コンピュータか何かで出てこないか。例えば、原子力委員会でもいろいろな会議をやっているだろう。私も福島に何回か行った。保安院も行った。そこでどんな意見が出ているのかというのは分かるだろう。そのときの例えば集約点も分かるだろうし、団体ももしかしたら分かっているのかもしれない。
（木元座長）
・団体は５、６人単位のものからある。
（小沢委員）
・そういう意見を取り上げて、失敗して誰も来なかったとしても仕方ない。
（中村委員）
・誰も来ないということはないだろう。
（小沢委員）
・そう思う。しかし、いつも形を整えるためにやるから同じことになってしまうのだと思う。背広が多いとか、女性が少ない等と必ず後で言うが、それだったらやり方を変えたらどうなのかと思って、それはどうなのかと言っている。
（木元座長）
・いろいろなホームページに出たりしている意見を集約して、その意見を踏まえて、開催すると伝えてはどうか。
（小沢委員）
・こういう意見で話したいという、人を特定して、あなたはこう言ったからぜひ出てきて話して欲しいと言うと、それはそれで良いのか悪いのか分からないから、こういうふうな意見で福島でこれまで大分いろいろな、例えば１年間なり２年間ぐらいの間にこれこれの会議があって、こういう話が出ていたと、そういう問題を踏まえて、違っ

た角度からやりたいのだが、と今までと同じように広告をして、それでそんな会議はつまらないと思って、皆さんが来なかったらしようがない。市民参加懇談会というのはそんな程度で良いのだと思う。

（木元座長）

・意見を集約して、こちら側で会場とかパネリストを決め、今まで第１部、第２部という方式はあまり悪いとは思ってないので、その方式でやるとして、筋道を立てて、広告するだけで良いか。先ほどの協力というのはどうするか。

（小沢委員）

・そうしたら、協力は要らないと思う。例えば、地元の人だけにしてしまうというなら、パネラーも何も全部地元の人だけにして、共催でなくても実態としてパネラーを全部地元の人たちにして、賛成、反対をがやがや、がやがややって、それで会場も含めて議論するというような、見事に形は整わないかもしれないが、そういう形もやってみようというのなら、それは話しかけ、各団体に「こういうことをやります。反対意見とかいろいろあると思いますが、あるいは推薦はありませんか」というように接触するということは問題ないと思う。

（吉岡委員）

・できればテーマを過去の会議から探るよりも、むしろ主要団体や一般にテーマを公募して、その中から有力と思われる、あるいは我々が適切と思われるテーマを選んだ上で、関係者、それを言ってきた人たちにもアンケートという形で意見を聞き、その上で招待状を出す、その程度のことでよろしいのではないか。

（木元座長）

・浜通りで開催するとした場合、どういうテーマがよろしいか、ご意見を聞かせてくださいというのを各種団体に出すということ。

（吉岡委員）

・目ぼしい主要な団体に。

（中村委員）

・それは可能な限り全部出せば良いのではないか。

（木元座長）

・郵送し、お答えいただいて、その中からコアメンバー会議で決めると。

（吉岡委員）

・原子力委員会のホームページにももちろんそれは出す。

（中村委員）

・吉岡委員がおっしゃる方法もあるが、ただそれだと余りにも拡散したところからご意見をピックアップしなければいけないし、できるだけたくさんのグループに声をかけたいと思っても、そういう事務処理能力のあるグループとないグループがあるだろう、特に小さな市民グループなどの場合。

・もう一つの方法としては、たたき台を我々が提案する。例えば割合包括的なテーマとして、東京でやったときの「知りたい情報は届いていますか」という問いかけはかなり気に入っている。いろいろなふうに枝葉をつけられるから。

・例えばだが、例えばそういうようなことでぜひやりたいと思っているが、ついては個々の各チャプターで取り上げてほしい、皆さんが議論をしたり意見を言いたいテー

マは何かというぐらいの問いかけをしてあげると、かなり方向性があって、１０人のグループでも１人が考えれば一応何か書いてこられるかもしれない。何もなしで何をやったらいいですかというのはちょっと不親切かなと思う。たたき台は否定されてもいいんだけれども、例えばこんなことでこんな大きなテーマでやろうと思っているが、これについてどう思うかということと、そういう大きなテーマの中で具体的にどういう討論が行われたらいいか、吉岡さんの意見も入れて考えると、ついてはどういう人に話をさせたらいいですかとか。

（木元座長）

・例えばテーマを「知りたい情報は届いているか」にして、浜通りでやると公表する。その場合そういうテーマを選択したら、誰がどのようにパネリストとして推薦してくださるか、と。

（中村委員）

・私たちがいいとか、そうではなくてどなたかをその人たちが推薦してくるかもしれないし、自分たちの中から絶対１人出したいという声もあるかもしれないし、ある程度のテーマの大枠とか、浜通りでやるか中通りでやるかというぐらい、それからおおよその時期ぐらいはこっちから提案をして、それをたたいてもらうという方が良いのではないか。

（木元座長）

・場所も公募するか。

（碧海委員）

・場所は決めた方が良いと思う。

（中村委員）

・場所は福島の場合だと、会津は難しいだろう。中通りか浜通り。どこで聞きたいかということで決めてしまえば良いのではないか。

・それと、今、吉岡委員が言われ、私が言い、小沢委員が言った趣旨を生かすとしたら、浜通りの方が良いと思う。中通りで、今考えているようなリアクションというか、ご提案が人選も含めてこういうテーマでやろうという話は厳しいかもしれない。消費地だから、問題意識が浜通りと少し違うと思う。それなら、どうせ行くなら浜通りの方がメリットはあるというか、意味はあるとは思う。

（碧海委員）

・先ほど言った、浜通りの方では相当長いこと頑張っている女性たちのグループも幾つかある。頑張っているというのは、自主的な勉強とか、何も原子力推進でというのではない。自分たちの生活をチェックするとか、地元の地域振興をやるとか、そういうことで集まっている女性たちがいた。

（中村委員）

・浜通りだと、「知りたい情報は…」という問いかけもあるし、敦賀開催のときと同じように「原子力との共生」も考えられる。

（小沢委員）

・浜通りでは、早く働いている人間のことも考えてくれ、という声があった。安全に働いている、と。

（中村委員）

・富岡町だろうか。
（木元座長）
・富岡町だと思う。切実な声がある。
（中村委員）
・福島はかなりそれは切実な声だった。
（木元座長）
・そういうことも含めて、「原子力と共生すること」の方が大テーマとしては良いのかもしれない。それに派生して具体性を持たせた小見出し的なタイトルが幾つかあればよい。
（中村委員）
・共生というと語弊があるかもしれないから、「原子力とともに生活してきて」、「暮らしてきて思うこと」というような、少し柔らかくした方が良い。また、あまり漢語を使わないで欲しい。
（木元座長）
・アイデアがあったら教えて欲しい。
（吉岡委員）
・私の意見としては、もっと狭めた方が良いような気がする。
（中村委員）
・狭めるために聞くということだと思う。
（吉岡委員）
・そうだが、公募で、漠然としたテーマで出すか、もうちょっと狭めて、例えば立地政策のあり方とか、国と自治体の関係とか、そういうテーマの中から適当に皆さんご提案ください、というくらいに絞った方が良いのではないか。
（中村委員）
・方法論としては、そこまでセグメントしたテーマというのもまた受け取る住民の方の受け取り方がいろいろあるから、例えば漠然とした、かなり大きなテーマを挙げておいて、例えば、幾つかそういう吉岡さんが考えていらっしゃるようなことまで含めて、例えばこんなのはどうかと丸をつけてもらっても良いし、それを消して新しいものを書き込んでもらっても良いという、それくらいちょっとフレキシブルにしておいた方が良いのではないか。でも、ある方向性を見せるためには、例えばこういうテーマでいかがかというのは幾つか並べても良い。
（小沢委員）
・福島は原発ができてから何年ぐらい経つのか。
（吉岡委員）
・‘７０年からだろう。
（中村委員）
・丸３２年ぐらいだと思う。
（小沢委員）
・自治体がどうのより、３０年原子力と一緒にやってきたというテーマの方が良いと思う。
（中村委員）

・要はそういうことなんですけれども。
（小沢委員）
・「３０年一緒に住んできて。」
（中村委員）
・「原子力と３０年。」
（小沢委員）
・「原子力と連れ添って３０年」ということだろう。
（岡本委員）
・皆さんのご意見が大体良いところに落ち着いたと思って安心している。
（木元座長）
・テーマとしては原子力と共生することをもっとかみ砕いてやった方がいいのかもしれない、というご意見があるんですが。
（岡本委員）
・最後に中村委員が言われたように、大きいテーマと個別的なテーマと４つ、５つ示して、それでそのテーマを公募をするのが良いと思う。
（木元座長）
・選んだ人が多いテーマを採用するということか。
（岡本委員）
・そうである。
（中村委員）
・「その他」として、自由記述を設けるのも良いだろう。
（木元座長）
・基本的には、「原子力との共生」という方向で。
（中村委員）
・浜通りでやるならそれこそ聞きたい。３０年間どういう思いで皆さんがいたのかというところを。
（蟹瀬委員）
・私もコアメンバーとしては後から入った方ですから、全体の流れというのは把握できないので、きちんと責任を持って言えないところがあるが、今の全体の流れで良いと思うし、どのぐらいこの会議が主体性を持ってやっていくのかというところにかかっているのだと思う。１００％投げて、何を話したらよいかとお伺いするのか、もう少し主導的な立場をとって、追い込んでいくといったら言葉は悪いが、こちらの方へ持っていくかという、そこにかかっているような気がするので、「原子力との共生」、吉岡委員がおっしゃるように漠然としたテーマではあるが、選択肢を幾つか出して、そこから選んでいただくというやり方は悪くないのではないか。
（木元座長）
・その中で我々のきちんとした考えを示していく、と。
（新井委員）
・話を前に戻すような感じもあるが、この前の「in さいたま」に出たときに思ったのは、ある種の関係者だけの集まりのような印象をすごく強く持った。聞きに来ている人の半分ぐらいはそうなのかなと思ったので、逆に言うと、こういう団体と共催をやると

いう考え方の底にはそうではない、普通の人が普通に出てきてくれるような状況をつくるとものしては、こういう考え方もあるのかなと思った。
・共催であるかないかというのは良く分からないが、いろいろな議論を聞いて、私はどちらでも構わないので、より多くの人が参加できる手法を考えることが一番大事なのではないかと思った。そのためには何ができるのかということで、こういう団体の名前も挙がったのかと思ったので、共催の良し悪しという議論になると、私はどちらでも良いと思っているのだが、なるべく多くの人に、それもごく普通の人に出てみようと思われるようなものに持っていくことを一義的に考えるべきではないかとは思う。
（小沢委員）
・考えて、考えて、考えてもいつも……
（新井委員）
・何か広げたらどうなるか。こういう団体ときちんと共催したらどうなるか。
（小沢委員）
・共催だと今度はまた違う意味で普通の人でなくなる。
（碧海委員）
・だから、この団体では一般にはあまり広がらないと思う。
（中村委員）
・こういう団体の方は大体いつも来てくださる。
（碧海委員）
・あまりすそ野は広くないのではないか。
（木元座長）
・ここに所属している地域の、グループというか、団体がある。
（新井委員）
・それだとまたこれは女性ばかりだろう。
・先ほど意見で出たのは、商工会議所とかがあった。
（木元座長）
・先ほど松田委員がおっしゃったように、ＰＴＡとか。
（中村委員）
・我々も経験があるが、商工会議所も普通にやったら背広の方ばかり来られるので、婦人部に声をかけないと女性は来ない。
（小沢委員）
・婦人部である必要もないと思うが、原子力のある町で子供を育てるとか、いろいろそういう話をこちらも聞きたい。
（碧海委員）
・子供だけでなくて孫だってできているかもしれない。
（小沢委員）
・シュラウドがどうしたとか、何とかのスチールの規格が合っているか合っていないかというような細かいことをどこに行っても延々とやる。もうちょっとここが心配だとか、それをどうするかという話で普通にしてみたい。
（新井委員）
・そういう人はどうやったら出てくるか。

（小沢委員）
・出てこないだろう。行けばたくさん会えるが。
（木元座長）
・そういうことではなくて、今、小沢委員が終わりに言ったシュラウドの件とか、そういうのは保安院でやってくれているから、そうでない部分。
・東京開催のときに、柏崎から逃げ出したという人がいた、子供を育てるのに。
（中村委員）
・もう少しいろいろなグループを、それこそ調べるのは小沢委員が言うように、今までの記録から参加したグループとか参加した個人を調べても良いし、公開されているインターネットの情報から、探すのでも良いし、今までそういうところでどういうグループが協力していたかとか、どういう人がパネリストになったかというのは、ちょっと調べれば分かると思う。
（木元座長）
・事務局は少し大変だけれども、これから取りかかれるだろう。
（中村委員）
・なるべく皆さん言われるように、一人一人に一番近い線までそれを探っていって、そこへぶつけていくということ。本当に欲しいのは、ここからの何かオフィシャルな話じゃなくて、もう少し一人一人に近いところだから、その辺はかなり細かいところまで打つことにしたほうが良いだろう。
（碧海委員）
・先ほど松田委員が言われたＰＴＡとか生協とか、そういうレベルは少しまたこれと違う。だから、そういうところに声をかけるとか、もし開催日が休日であるなら教職員、いろいろ壁はあっても先生たちに接触してみる手はあるのではないかと思う。
（岡本委員）
・少し長い目で見たときに、特に福島みたいに定着しているような地域だと、思い切ってどこかの高校１学年全部とか１クラス全部とか、そういうそもそも学校教育に手を入れていかないと、あそこが結構大変なんですよね。先生方は割合皆さんお好きでないし、そこを通るときに私の子供でも原子力発電というのは悪いことみたいに思い込んでいて、どこで思い込んだのかと思って調べてみると、先生がそういう感じで、それもはっきりおっしゃるのではなくて、「えっ、原子力発電」と、こういうニュアンスみたいなことで子供が受け取ってくる部分はあるわけである。そうすると、少し長い目で見て高校生ぐらい、高校２年とか、それを１学年とか、あるいは１クラスとかに来てもらえると、男女のバランスもとりやすい。
（木元座長）
・それは開催地が大体決まって、テーマも決まって、その段階でそこに近いところの１クラスとか、そういう意味か。
（岡本委員）
・そういう感じである。
（小沢委員）
・それは難しい、何回かどこかであった。大学でさえそろって来なかった。大学のゼミから申し込まれて、どこだったか…

（木元座長）
・本当に意欲があって、関心を持てる子は来る。１クラス全員というのは不可能にしても声をかける意味はきっとあると思う。
（小沢委員）
・学校は押しつけられると反発するところもある。
（中村委員）
・クラス全員とか学年全部とかいうのは非常に難しい。それは違う問題が彼らの中にあるから。
（木元座長）
・発電所側から見てみると、見学に来ている学校とか先生がいらっしゃるだろうから、その方に声をかければ関心があるかもしれない。いろいろな方法がある。
（中村委員）
・時期的に、例えば春休みに開催可能ならば、良いかもしれない。
（小沢委員）
・例えば、工業高校等、理科系の学校を手始めにして、試しに来てもらえないかというのは、比較的受け入れられやすいかもしれない。
（新井委員）
・どこかに、一度原子力の授業をやろうと言っていた高校があったと思う。実施直前で、何かあってストップになった。特別な授業が設けられた中で、継続的にやっていこうとして、結局県教委から注意か何か入ってストップしたまま凍結になってしまっているところがあったと思う。
（小沢委員）
・理科系の学校だったら、賛成でも反対でも良いと思う。とりあえず分かりやすいのではないか。
（碧海委員）
・進路として工業高校からは結構発電所に行くと聞いている。
（木元座長）
・良いかもしれない。
（小沢委員）
・反対意見が出てきたらおもしろい。
（吉岡委員）
・私はいまひとつ趣旨が違うような気がしている。政策への注文を聞くのが我々の目的であり、啓蒙ではないのではないか。
（木元座長）
・政策への注文というよりも、政策を策定する場合に市民がどういうふうに考えているかということを反映させていくということ。
（吉岡委員）
・政策に対して言うべきことを言っていただくというのが基本的なことで、啓蒙イベントではないと何度も言っている。高校生を呼ぶというのは一体彼らが政策について何を……
（木元座長）

・私は子供からちゃんとした考えを持って、良い、悪いという選択を自分ができるような能力を持ってほしいと思うので、その意味でも意味があると思う。
（吉岡委員）
・それは啓蒙イベントと位置づけるべきものだと思う。私たちは時間もないし、非常に忙しい上に、３年間やったなりの政策提言なるものは出していない。そこはもう少し焦って、政策に影響があるような提言を一生懸命拾い集めるという方向にシフトした方が良いのではないか。
（木元座長）
・今後長計の策定の会議に入るときに、市民参加懇談会ではこういう意見が出ているということは報告できるから、今はそんなに焦ることはないのではないか。もっと集めなければいけないと思っている。
（碧海委員）
・それに高校生なら十分ではないか。
（木元座長）
・十分だと思う。
（吉岡委員）
・前回の座長の発言を聞いてがっかりしたのは、市民参加懇談会が長計策定に際して原子力委員会に市民の意見を伝えるだけの存在と考えられていたことだ。その程度の会でいいんですかとますます思う。
（木元座長）
・それでは、どうあれば良いとお考えか。
（吉岡委員）
・まず集中的にテーマを設定して、比較的少人数で言いたいことを言わせるという形でやれば具体的にどう変えるかについての意見を引き出すことができる。それについて私たちが一定の判断を加えて、報告、提言を行う。
（木元座長）
・ご提言は前からおっしゃっていることで、私も吉岡委員の気持ちは分からないわけではないので、ペーパーでお互いに出すのはいかがか。出してみて、具体的にどういう形で、いつどこで、どういう少人数で、どういう人を出して、どういう意見を出して、という筋道を比較すると、それぞれイメージが違うと思う。
（吉岡委員）
・そう思う。皆さんも出していただければありがたい。次回までに用意する。
（木元座長）
・今の吉岡さんの意見は、またご討議する機会があるかと思うが、今日は次回の福島の件に絞らせていただきたいと思う。
・ここまでの議論としては、共催はやめよう、と。言葉として、ある団体が「協力」という形でお名前を出すことは可能であるということ、それからテーマについてはこれから大急ぎで皆さん方のご意見を集約しながら公募してみよう、と。一つのたたき台としてこちらは何らかのテーマを提示してみて、その他のご意見を書く用意をしようと、そこまではよろしいか。
（碧海委員）

・少し異論がある。
・公募というのはどのレベルで公募とするのか。私は公募と決めたら公募しなければおかしいと思う。相当広く。でも、その必要はないのではないか。つまり場所も決めて、その他についてはもうちょっと狭めて相談をすれば良いのではないか。
（木元座長）
・誰に相談をすれば良いか。
（碧海委員）
・例えば地元のマスコミ関係の人から情報を得るとか、木元座長はいろいろなルートを持っていらっしゃると思うが、そういうところから情報を得て、それで個別に相談をして意見を聞くというのなら分かるが、公募ということは相当広く、ホームページに載せたりして広く聞くということである。個別に相談して意見を聞くのを公募と言うのはおかしい。今回の市民参加懇談会はテーマについては「公募した」ということが記録として残るので、公募という言葉は簡単に使わない方が良いと思う。
（木元座長）
・先ほど申し上げた「公募」は、ホームページに載せるとか、いろいろな団体に伺うとか、そういうことになると思う。
（碧海委員）
・そこまでする必要はあるか。
（木元座長）
・皆さんの意見を伺いたい。
（碧海委員）
・先ほど中村委員が言われた、「情報は届いているか」というのが一般市民としては一番意見を言いやすいテーマだと思う。
（中村委員）
・ただ、福島の浜通りとかなり固まってきているから、そうすると…
（碧海委員）
・サブタイトルを相談するというのは分かるが、「情報は届いているか」というようなメインタイトルにすると、サブタイトルとして何が良いかを公募するということには、疑問がある。
（中村委員）
・単に言葉の問題だと思うが。
（碧海委員）
・しかし、「公募」という言葉は残る。
（木元座長）
・ご意見を聞くということである。
（中村委員）
・参加性を高めるためにもこちらが福島のさまざまなグループに提案をしていくということ。
（木元座長）
・公募でなく、こちらが決めたものをあらゆる限りの団体なりにお出しして、ご意見を伺うという形を仮に公募と言ってしまったという、そういう解釈でよろしいか。

（中村委員）
・そういうことだと思う。
（吉岡委員）
・「意見募集」でよいのではないか。
（木元座長）
・「ご意見募集」…「ご意見を伺う」で良いか。
（中村委員）
・伺うのではないと思う。我々と市民は同じ立場だから、「聴く」のであって「伺う」のではない。
（木元座長）
・「意見募集」で良いか。対等な立場で。
・テーマについては、ご意見を募集するという方向でいきたい。こちら側ができる限りの団体なら団体にお出しする、あるいはホームページに載っかっている……
（中村委員）
・具体的にプラグマティック（実際的）に考えれば良いと思う。意見を募集するとかというのではなく、先ほど言ったように大体浜通りだから「原子力と３０年」と言う話を聞きたいわけだろう。我々としてはこんなことを話し合いのテーマにしたいと思っているが、いかがですかと、ほかに皆さんからご提案はあるかということをお聞きする、と。
（木元座長）
・我々がこれだけのテーマを皆さんのたたき台として挙げてありますよということをお示しすれば良いということ。
（中村委員）
・こんなことを話し合う場を持ちたい、聞く場を持ちたいということでどうか、ほかにもっと言いたいことがあるならどうぞお書きくださいということである。
（木元座長）
・自由記述のところに書く。
（小沢委員）
・「今何を考えますか」、「どう考えますか」。「賛成か反対か」。
（東嶋委員）
・先ほど小沢委員が言われた「原子力のある町で子供を育てる」というのも良いと思う。「子供を育てる」というと、少し女性に偏りがちなので、「暮らす」とか「生きる」とか。非常に漠然としているが。
（井上委員）
・できる限り声をかけられる団体を網羅するとすると、それぞれの団体にはそれぞれの団体のメイン活動というものがあると思う。消費問題に特化する、ＰＴＡだったら教育、商業、まちづくり、そうすると一つタイトルとかテーマは幅の広いテーマ、例えば原子力のある暮らしというのが事実３０年あるとするなら、それぞれにかなり広い間口についてご意見をというよりも、例えばＰＴＡだったら教育の問題に焦点を当てて書いてもらえれば良い。まちづくりの将来について、それから立地政策をどう思うかとかと幾つか具体的なものをこちらから提示できるだけ書いて、それに一番フィッ

トしたものの部分を書いてもらえれば、その書いてもらったことに関してぜひ参加してくださいというような形で書いた意見と当日参加するということがつながって、自分たちの意見表明をしたということは、自分たちの団体にとっても一つの見解であるというようなつなぎにしていけば参加者も多く来るのではないか。

（木元座長）

・今の案だと、いろいろとこちら側がたたき台を作る。教育の問題も良いかもしれない、子育てのこと、暮らしのことも入るかもしれない。そういうのを挙げておくと、例えばＰＴＡ関係だったら教育のことを書いてくるだろう。

（井上委員）

・一番興味のあるものに近いテーマの部分に意見を書いてもらえれば。

（木元座長）

・そこに丸印しして、意見を書いていただくというような感じ。

（井上委員）

・私だったら福島県に住んでいる人たちは何を考えているんだろうと思う。何を考えていると漠然とではなく、例えばＪＡの人たちだったら食糧問題とエネルギー問題は全然乖離しているのかとか、食糧の自給率のことは一生懸命考える、農作物は考えるけれども、エネルギーのことは全然考えてなかったわというような実態を声として聞きたいと思う。

・それから、３０年間でまちづくりはどうだったのかと、商工会の人たちはどう考えているのかとか、そういう雇用の問題で言いたいという人たちもいるだろうし、一番自分たちが言いたいと思っていることを、グループでも、個人でも、団体でも良いが、聞かせてほしいと思う。そういうような意見が出せるようなペーパーを出して、事前に協力をいただけるならばそういうように出し、この意見をぜひいただく。

（木元座長）

・仮にある団体が、賛成していろいろ書いてくれたが、その結果もしかしたら違う方向に行くかもしれない。いろいろな団体があるから、ご意見もいろいろ。それをどうするか。あるテーマにするとそのテーマの団体は参加するかもしれないが、そうでないことをメインテーマにしている人たちへの配慮が必要ではないか。例えば、みんなが関心を持つ大元のテーマがあるはずで、例えば今おっしゃったことは「原子力のある町で暮らすこと」に引っかかってくる。自立することから何から全部。この間、福井県高浜町で話し合ったときに出たことだが、原子力が来て町が活性化するのではなく、来たことによって、自分たちが町を活性化させるのだということに気がついて、どうやって自分たちが営業まではいかなくとも、発電所の運営に参画できるのかと、業務に取り組むための資格を取ろうとか、積極的な姿勢がある。そういうことが見出せればまた違う展開が出るかもしれないし、その中にいろいろ含まれるテーマもある。個別に具体的なテーマを書いていただければ多くの方に関わりがもてるのではないかと。

（中村委員）

・とにかく参加性を高めるのが最大目的である。

・細かいことを言うようだが、「原子力のある町」というフレーズはやめた方がいい。なぜなら、原子力のない町でも原子力のことを考えているのが福島ではないか。立地しているのは３町村だが、みんな首長さんたちも原子力のことで会合を持ったりして

いるのは十幾つではないか。だから、ある町ではない。そこは絞らないと。
（木元座長）
・「原子力とともに」が良いか、町を省いて。
（中村委員）
・「ともに生きて」でも良いし、「ともに暮らして」でもそれは良いと思う。隣の町だってともに暮らしているわけだから。特に、あそこの福島の場合は周辺町村のことも大事なこととしてある。立地だけでなく。
・東京の場合は消費地の方であり、立地の隣じゃないし、立地の隣は茨城県がある。
（木元座長）
・国の交付金の範囲が決められているから、ほんの数メートル離れたところは恩恵を受けないとか、いろいろなことがある。
・ご意見の募集という方向で今のようなことでよろしいか。あとはそれが出てきたところで、その後の段階でパネリストとかを決める。それから、今ここまで浜通りと絞られてきたが、開催する場所、どなたかご存じだったらどこが良いというご意見はあるか。富岡がいいとか大熊がいいとか、会場はこういうのを持っているから良いとか、それはこっちで調べるか。
（中村委員）
・大きな会場は２カ所ぐらいしかないはず。
（木元座長）
・何人ぐらいの規模の会場がよろしいか。せいぜい２００というところか。
（小沢委員）
・２５０までだろう。
・自分たちでやるといったら８０ぐらいだけれども、私たちが行って少し公募をするのだから２５０というところだろう。
（木元座長）
・大分流れが固まってきているが、２００人くらいの会場だったら、富岡でも大熊でも双葉町でも、ある。
（中村委員）
・前に考えていたような円卓方式というのも可能ではないか。パネリストを真ん中に置いて、皆さん周りから見ているというのも可能だろう。
（木元座長）
・刈羽のときの拡大編というイメージ。
（中村委員）
・フラットでいすを並べるところなら、ホールじゃない方が良いと思う。
（木元座長）
・刈羽開催のときは、囲んで、向かい合って座った。
（小沢委員）
・２５０人で囲むのは無理だと思う。２５０人が輪になるのは。
（木元座長）
・浜通りの中のそういう会場の候補を今後挙げてみる。会場についていろいろなご意見が出た。資料１５－２に、配置についてというのが２ページにあって、上から話しか

けるのではなくて、同じフロアで同じ目線で同じテーブルを囲み合うようにというのが基本的な考え方である。以前は顔を見えるようにというので、段をつくり、設営したということがあった。

・同様に２ページで次回の開催に向けてのご意見というのがあって、４つぐらい箇条書きがあるが、これはどうか。コアメンバーとして考えた場合、この間の蟹瀬委員の司会の場合は、蟹瀬委員が真ん中にいて、向かって右が第１部のパネリスト、左がコアメンバーと配置した。

（蟹瀬委員）

・しゃべる機会がなかったコアメンバーもいらした。

（木元座長）

・中村委員にも司会を何回かやっていただいた。

（中村委員）

・コアメンバーは基本的にあまりしゃべる機会がない。

（小沢委員）

・言う必要はあまりない。

（中村委員）

・聞く方がメインで、基本的にコアメンバーの意見を言う場所ではないから。

（木元座長）

・コアメンバーの席として、フロアの皆さんの横にテーブルを置くという意見もある。これは井上委員から出たのだったか。

（碧海委員）

・テーブルではなくて椅子ではないか。

（小川委員）

・テーブルつきではないということ。椅子だけ。

（木元座長）

・テーマが決まって、会場が決まった段階で、配置についてもう一回ご相談させて欲しい。

（蟹瀬委員）

・会場が決まらないと難しい。

（碧海委員）

・会場も日時も。

（中村委員）

・会場は多分結婚式場になるから、基本形としてフラットなところだと思う。コアメンバーはなるべく壇上に上がらないようにというのは前から出ている意見だが、それはできるのではないか。ほんの少し、ステップ程度の高さところにパネリストに上がっていただき、発言していただいて、フロア側の方にコアメンバーが並んでいるというのができるのではないかと思う。壇上にずらっとコアメンバーが並んでいるというのは、自分でいてもおかしいなと思う。

（木元座長）

・前回のコアメンバー会議で東嶋委員が言われたが、最初にコアメンバーが一人一人自己紹介する。そして会場から意見があり、コアメンバーとのやりとりもある場面では

必要かもしれない。
（中村委員）
・コアメンバーは位置づけが違うだろう。コアメンバーは議論してはだめだろう。
（木元座長）
・テーマによるだろうという気がした。この間のさいたま開催もそうだったが。
（東嶋委員）
・意見を言うというよりは、今の配置の話にもつながるが、フロアの市民の皆さんの中にも混じるようにしていて良いと思っていて、それで最初に例えばばらばらといる中で、コアメンバーとして例えば「東嶋です」といって立って、きょうは私は子育てがここでどんなふうにされているとか興味があるとか、教育についてとか、そのテーマに沿ってもうちょっと細かいテーマについて、私はこういうことを聞きたいとか、皆さんの本音を聞きたいとか、何を聞きたいとかをそれぞれ言うぐらいの自己紹介をすれば良いのではないかと。
（木元座長）
・議論するということではなくて、もっとあなたのおっしゃっていることの意見を深く聞きたい、もっと具体的に聞きたいという場合にはお聞きするという機会があれば良いと思う。
（中村委員）
・それは良いと思うが、コアメンバーというのはもっと匿名性があって良いと思う。
（碧海委員）
・コアメンバーがパネリストに質問はして良いと思う。一種の進行を助けるという意味でコアメンバーがここでちょっとこういう質問を入れておくと良いのではないかということで、パネリストの方に質問を入れるとか、そういうのはあっても良いように思う。そうしないと、何となしに会場の人たちの質問とか意見だけだと、少しもったいないようなときもあるから。
（木元座長）
・テーマにもよるが、今回は当事者は入れないで良いか。
（碧海委員）
・説明者を入れるかどうかということか。
（中村委員）
・説明者は要らない。
・必要な説明は木元座長が全部できる。
（木元座長）
・いざとなったら皆さんに振り向けるということもあり得るので、それは後からまた考えさせていただく。ここまで来たので、事務局がやる仕事も大分明確になってきた。
・浜通りの場合に、町の名前がいくつか出たが、どこでも構わないか。条件によってはまず会場があるかないかから入っていて、それからその町の意欲というか、やりたい人が手を挙げて何かを言ってきたらそこを優先的にするかもしれない。
（中村委員）
・１年半ぐらい前から散発的に何となくうちの方でやってよ、やってよという声は聞こえているから、あの人たちがどこの方なのかを一応調べて、熱心に言っているところ

がどういう状況かというのは調べた方が良いのではないか。
（小川委員）
・今までの意見の集約というのはするのか。今まで浜通りでどういういろいろな意見があって、という集約。
（木元座長）
・それを事務局がやるとして、その中でブロックごとにというか、ご意見の中身を分けてみる。それを基にしてテーマを作るという手順か。
（小川委員）
・小見出しの方のテーマをということか。大見出しの方は大体先ほどの話で「原子力とともに暮らしてみて」とか、そういうことだろう。
（木元座長）
・そういう意味になると思う。碧海委員がおっしゃった知りたい情報が届いているかということも……
（碧海委員）
・知りたい情報にはこだわらない。暮らしでも結構なんです。
（木元座長）
・その中に入ってくると思う。当然のことながら。
（小川委員）
・了解した。
（木元座長）
・今までのように第１部、第２部でやる形式はこれでよろしいか。第１部で問題提起していただき、第２部で会場からご意見を聴く。
（蟹瀬委員）
・参加者の方の意見をたくさんなるべく聞きたいという意味で、前回はその意味ではその辺が弱かったという自分の反省もある。バランスが肝要。
（小川委員）
・いろいろな団体の方にどういうテーマでとか、どういうようなものに関心がありますかとか、意見を聞くというところで、すごくたくさん出てきた場合はどうするか。
（碧海委員）
・テーマによるだろう。
（中村委員）
・それは集約すれば良い。
（小川委員）
・それはそうだが、そうしたらいろいろな団体の方に聞いたという手前、第１部のパネルディスカッションは３人ということでなくて、１人か２人の問題提起で、あとは後半なるべく長く会場との意見交換というのもいいのではないかと思う。
（木元座長）
・だが、会場からご意見をとる場合に、第２部などでは唐突に全然違うのが出てくる。
（蟹瀬委員）
・それはやる方で小見出しをつけて、これについて、次これについてということを少し誘導していくような方向でやった方が良いということ。

（中村委員）
・浜通りでそういう原子力とともに暮らしてというようなことでやるのなら、第１部、第２部に分けない方が良いのではないか。
（木元座長）
・最初から会場の意見を伺う、と。
（中村委員）
・第１部、第２部でやってパネリストを選ぶとなると、どういう人を選ぶかという問題が出て、例えば地元のメディアとかという人が１人入ってというような検討が始まるだろう。そうすると、正に「振り出しに戻る」で、結局同じことではないかという話になる。これは敦賀でもそうだったではないか。どうアプローチを変えたって、発言するパネリストの内容が一緒という。
（木元座長）
・あのときは福井新聞の方と消費者団体の女性の方が出たが。
（中村委員）
・第三者的に第１部でパネリストが意見を言うというのは、ない方が今回の場合は良いのではないか。いきなりでこのご協力をお願いする、いろいろ意見を寄せてもらうところからまずパネリストを選ぶ。
（木元座長）
・パネリストは置くということか。
（中村委員）
・置くのだが、最初から第１部、第２部にしないの。休憩をはさむ第１部、第２部はあって良いと思う。
（木元座長）
・第１部で、ある種の問題提起をしていただいて、それをきっかけにして展開という方向をとっていた。
（中村委員）
・問題提起が第三者じゃなくて地元の人で良いわけだから。
（木元座長）
・第１部では地元の人を中心に発言していただく、と。
（碧海委員）
・刈羽村スタイルですよね。あのときはパネリストがいる第１部はなかったでしょう。第１部、第２部という構成ではなかった。
（木元座長）
・ぐるっと囲んで皆さんに意見を言ってもらった。
（中村委員）
・問題提起というか一つの方向性というか、テーマの選択とかという役目はあるから、休憩までの前半は地元のパネリスト、つまり第１部から皆さんのご意見を聞いていることになる。
（木元座長）
・本音を最初からぶつけてもらおうという感じ。何人ぐらい最初にお願いするか。３人ぐらいか。

（中村委員）
・もし先ほど申し上げた案でいくのなら、もう少しいても良いと思う。
（木元座長）
・５、６人。
（東嶋委員）
・ご意見募集のアンケートなり質問用紙を配るときに、パネリストとして出ていただけるかというようなことを伺って、それで……
（中村委員）
・コンタクトする相手が個人ではないので、分けて考えなくて良いと思う。
（東嶋委員）
・団体から出していただけるかということを伺って、出たい数だけ出ていただいたらどうか。
（碧海委員）
・パネリストではなくて発言者で良いだろう。発言者をなるべくたくさん先に……
（中村委員）
・休憩があるから当然第１部、第２部になって構わないけれども、今回は第１部から地元の声を聞くというスタイル。
（木元座長）
・その地元の声を聞くのに不特定多数の方からではなくて、ある程度１０人とかをお願いしておこうと。
（中村委員）
・代表発言者という感じで、７人かそれぐらいか。物理的に考えると。
（木元座長）
・皆さん最初は意見が出ない。
（中村委員）
・それで、第２部の方はそれを踏まえて会場からどんどん。
（碧海委員）
・例えばの話、保健所みたいなところの仕事をしているような人が地域の健康状態みたいなものがどうかとか、そういうような話はできると思う。
（中村委員）
・そういう話にはならないだろう。
（碧海委員）
・３０年間かかっているわけだから、その間に当然地元の暮らしは変わったわけである。だから、そういう話をいろいろな切り口で話をしてもらえば。
（蟹瀬委員）
・代表発言者という場合に、その方々が漫然とお話しになると重複するので、例えばこの方は教育、この方は仕事の話、この方は生活についてとか、この方は農業についてとか、この方は政策についてとか、何かそういう形で出していかないと訳が分からなくなってしまう。
（中村委員）
・最初にご意見を吸い上げたところで、テーマごとにこういう話で発言してくださいと。

（木元座長）
・出ていただく方はテーマ別で一応お願いしておくということ。
（蟹瀬委員）
・それが最終的に吉岡さんがおっしゃったように、政策提言の方へ流れていけば良いわけである。
（木元座長）
・第１部、２部は休憩という意味からすれば時間は半分、半分で良いか、第１部を少し短くして第２部は長く。。
（中村委員）
・第１部は少し短い方がよろしいかもしれない。。
（木元座長）
・今までの時間割でいかせていただいてよろしいか。１時間半と２時間。
（中村委員）
・１時間半と２時間、それぐらいなら良いと思う。
（木元座長）
・延びると４時間になるということである。
・前回は蟹瀬委員に第１部、第２部つなげて司会をやっていただいて、その前は中村委員に２回ほど第１部だけやっていただいて、第２部はコアメンバーからは出たと思うんですけれども、流れとしては通した方がやり易いような気がしてきた、おやりになる方も。それは中村委員、どうでしょうね。今回は１部と２部つながるわけだから。
（中村委員）
・私自身は松田委員がやられたように、コアメンバーが持ち回りで第２部の聞き役になるというのは結構気に入っている。
（木元座長）
・聞き役で２人出て今までやっていた。そういう方向が良いか。
（松田委員）
・今回はもうちょっと、プロの方にきちんと取り仕切っていただいて、意見をきちんと出していただけるように。
（中村委員）
・今までのはちょっと素人っぽいというか、皆さんと同じというのが売りだったので、第１部は一応プロが仕切る、第２部はコアメンバーがという、そういう位置づけだったんだが、それはそれでよい。そういう形でやるときは。しかし、今回の場合は少し違って、最初からみんな聞きたいということだから。
（木元座長）
・私がもし仕切るんだったら、通した方が良い。やり易いと思う。
（中村委員）
・今回の場合だと特にそうかもしれない。一気通過の方が良いかもしれない。
（木元座長）
・改めて日時などがいつ明確になるか、会場のことも含めて、テーマのことも含めて、ご面倒でしょうけれども、お集まりいただく時間がないので、ファクシミリで送らせていただく、そういうことになると思うので、よろしくお願いしたい。

（碧海委員）
・大体の時期はいつごろか。
（木元座長）
・２月は無理ですね。
（小川委員）
・先ほど３月春休みがどうなんていう話をしていた。
（碧海委員）
・３月は私たちなんかが催し物をやる場合も非常に人が集まりにくい。
（小川委員）
・春休み中だと逆に忙しいか。
（碧海委員）
・それから、いろいろな催し事がある。卒業式だとか、あるいは謝恩会だとか。
（中村委員）
・前にも言ったが、４月というのは案外イベントがない。
（木元座長）
・４月という案も考えられる。
（中村委員）
・４月に入って、下旬のゴールデンウイークに入る前というあたりが結構ブランクかもしれない。
・４月ならいろいろ意見を聞いたり、テーマを募集したりする余裕もあるし、あまり拙速に進めない方が、せっかくここまで煮詰まったんだから、いろいろなグループに参加してほしいし、そのための時間を持った方が良い。
（木元座長）
・そう思う。
（中村委員）
・４月ぐらいのつもりで良いのではないか。
（木元座長）
・ということで、今日もいろいろご意見を承ってありがとうございました。勉強になる。こういう会議というのは重要だなとしみじみ感じる。
・申し上げた内容については、ファクシミリ等で伺うことになると思うので、よろしくお願いしたい。
（犬塚参事官補佐）
・今回のコアメンバー会議については、議事録を作成し、出席委員の確認の後にホームページに掲載、公表ということを考えている。
（木元座長）
・最後になったが、原子力委員会の委員が交代することになった。私だけは宿題があったと自認しており、居残りという形になった。
・竹内委員は本日ご出席いただいているが、委員の中でも特にコアメンバー会議に頻繁に出席していただき、ご意見をくださった。
（竹内原子力委員）
・市民参加懇談会、コアメンバーのお役に立ったかどうかは分からないが、私はこの動

きがこれからの原子力委員会の新しい切り口をつくると信じており、大きく広がっていくことを期待している。
・木元座長は、ますますこれから皆さんとともに、引き続いてのご活躍を祈っている。また、コアメンバーの皆さん方も今後ともよろしくお願いしたい。どうもありがとうございました。

（木元座長）
・ありがとうございました。
・私自身は引き続き座長をやらせていただくので、今後ともよろしくお願いしたい。

（２）その他
特になし

○本日の議論等より、事務局が次回の市民参加懇談会について必要に応じ、各委員にご意見を伺うこととなった。

以　上